

# 高知土木技士

No.56

(公社) 高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館 5 F TEL 825-1844]



## 平成 26 年度表彰 高知県優良建設工事

施 工	尾崎建設有限会社
工 事 名	砂防第21-3-4号 川口谷川通常砂防工事
場 所	高知県吾川郡いの町勝賀瀬
現場代理人	三 谷 幸 雄
主任技術者	宮 田 竹 男



## 新年挨拶

(公社) 高知県土木施工管理技士会

会長 田邊 聖

新年あけましておめでとうございます。皆様にとりまして希望ある、より良き年となりますよう心からご祈念申し上げます。

また、平素より当技士会の運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、師走の消費税解散で駆け抜けてしまったような一年でした。

そして明けたこの新年は、アベノミクスの効果が地方とりわけ高齢化先進県の高知にも波及して経済再生に向かうのか、評価が問われる年となりそうです。

県内に目を向けますと、高知県内建設業にかかわる事業量はよい方向に向かっております。その一方で、建設業に携わる技術者の状況はどうかと見てみますと、他産業に比して高齢化、若手技術者と新規入職者の不足傾向が顕著になってきております。

建設業におけるこのような状況は全国的なものであり、国交省におかれてもいわゆる担い手3法の改正等の法整備のもと、週休2日制、女性の活用、技術技能の伝承のための研修や、現場技術者の工夫や知財活用によるインフラメンテナンスの新技术共同開発を助成する等々の建設業活性化のため取り組みが示されております。

高知県においてはすでに昨年と同様の取組みを具体化しており、技士会活動においても、その先進性を再認識するとともに、国県の施策を両輪として確かな活用に向けた取組みが求められます。

これら施策に対応し、若年入職対策「完全週休2日制の試行」、女性の活用「<sup>じょ</sup>どぼ女<sup>けんせつこまち</sup>(建設小町)」等のキャッチフレーズをマスコミ等で見聞きするようになりましたが県内の技術者の皆様を取巻く状況はどうでしょうか。ちょうど本年は全国技士会連合会(JCM)による3年毎の技術者アンケート(無作為抽出による)が行われる年でもあります。技術者の皆様の就労環境を施策に反映させるための資料の一助となるものですので、よろしくご協力をお願い致します。



高知県技士会は本年も引き続き今までの実績を踏まえつつ、資格取得支援並びに技術講習、現場見学会の開催など、土木施工管理技術に関する継続学習(CPDS)を実施して、技術者の技術力の向上支援に全力を挙げて取り組んでまいります。会員の皆さまには、昨年同様に、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、各関係団体のご指導とご支援を賜りますことをお願い申し上げ、本年も会員の皆様のますますのご発展、ご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



## 新年挨拶

高知県土木部長 奥谷 正

新年あけまして おめでとうございます。

高知県土木施工管理技士会の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日ごろは土木行政をはじめ県行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

我が国は東日本大震災からの復興に全力を挙げて取り組むとともに、人口減少と少子高齢化の進展、経済の停滞、エネルギー問題や災害への対応など数多くの困難な課題に直面しており、重要な岐路に立っています。

このような中、本県は全国に先駆けて人口減少や過疎化の進行、経済の縮小、あるいは自然災害への備えといった課題に向き合っています。このため「課題解決の先進県」として、さらなる県勢浮揚を目指して、現在さまざまな取り組みを進めているところです。

南海地震対策では、昨年3月に内閣府から公表された津波浸水想定や、去る12月に公表した本県の第2弾の震度分布・津波浸水予測をもとにソフトとハードを柔軟に組み合わせた対策を一層推進していきます。

また、県経済の活性化に対しては「第二期産業振興計画」に移行し、10年後には「地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県」を目標に官民が一体となって様々な施策を実施しています。土木部ではこれらを施策を積極的に支援するとともに、県民の皆様の安全・安心の確保と将来に希望を持って暮らせる豊かな県土づくりを目指して、良質な社会インフラの整備とその有効活用に取り組んでいるところです。

こうした取り組みを着実に進めるうえで、日ごろから技術力の研鑽や資質の向上に自ら励まれている高知県土木施工管理技士会の皆様には、今まで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、高知県土木施工管理技士会のますますのご発展と会員の皆様方にとって希望ある良き年でありますよう、祈念申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



★ 寄稿 ★



## 福島県新地町での災害派遣業務

高知県土木部道路課

野中 隆一

### 1. はじめに

平成24～25年度の2ヶ年にわたり、福島県浜通りの宮城県との県境に位置する新地町において災害派遣として勤務しました。派遣先では、復興事業を行う復興推進課に配属され、防災集団移転促進事業と防災緑地事業を担当しました。本稿では、派遣期間中に工事が完成した防災集団移転促進事業による被災集落の高台移転のための新たな団地の整備について説明いたします。

### 2. 新地町の被災状況

町役場に設置された地震計の記録によると、14:46から14:58までの12分間にわたり揺れが続き、14:47に最大震度6強を観測しました。地震発生から約1時間後には、3階建の下水処理場を超える高さ10m以上の津波が襲来し、沿岸部の6つの集落では、457世帯の家屋が全壊しました。このため、町は、この6つの集落を今後津波が到達しないと考えられる高台へ移転させるため、防災集団移転促進事業により新たに団地を整備することにしました。



3階建ての下水処理場を超えて押し寄せる津波

### 3. 団地整備の基本的な考え方

私が派遣される前までに、町は、高台への移転にあたり、住宅再建後に安心して暮らせる生活環境が早く整うよう、従前の集落単位による移転を基本とし、高齢等の理由からすまいの再建が困難な方のためには、団地内に戸建ての公営住宅を整備する方針を決定していました。

この方針の下、町が調査した土地の提供に協力的な地区のうち、5地区を団地の候補地として被災者に示し、町が整備する団地で再建するかどうかの意思確認と、再建する場合は、希望する団地、宅地の広さ等の調査を行いました。これにより設計に必要な基本的な条件



（区画数、宅地部の面積等）を早い段階から把握することができたため、当初から精度が高い事業計画の作成や設計内容の大幅な見直しを抑えることができました。

私は、この調査の集計が行われている最中に着任しましたので、町の被害状況や被災者の意向の把握と同時に、設計作業や許認可に必要な法や基準の確認を早急に行う必要がありました。

#### 4. 被災者に寄り添った団地の設計を目指す

町にとっては、被災者の子や孫の世代まで住み続けてもらうことが大切です。このため、被災者と町の双方が納得した団地となるよう、時間を要してでも丁寧に説明し、設計することとしました。そのため、区画道路や集会所、ごみ集積所、消火栓、電柱等の位置、宅地の地盤の高さ、街並みのルール等について、団地毎にワークショップ形式により意見を集約することにしました。ほとんどの被災者がワークショップは初めてでしたが、事前に被災者同士で勉強会が行われ、毎回、白熱した議論が交わされました。様々な提案を団地の設計に反映するため、何度も見直しを繰り返し、平成24年10月に全団地において設計内容を了承していただくことができました。



団地設計の意見交換の様子



雁小屋団地のイメージパース

#### 5. 作業員や重機、資材の確保が困難な中での工事

設計完了後すぐに全団地の積算を開始し、平成24年12月末に、町内に本社や営業所がある建設会社に工事を発注しました。すでに町内の建設会社は、津波堆積物の処理や災害復旧などの多くの工事を抱えておりましたが、工事を引き受けていただきました。地元の企業として使命と責任を果たすという姿勢を直に目にすることとなりました。

さて、契約が済み施工計画の打合せを行い、いざ現地の作業を開始すると次々と問題が発生し、その解決のため、各現場だけでなく、役場内や関係機関を毎日走りまわることとなりました。以下では、その中から二つの事例を紹介します。

一つ目は、工事車両の通行です。町内では、すでに、土木、農漁業施設の災害復旧・復興工事により尋常ではない数の工事車両が町内を走り回っていました。このような状況で、団地の整備により発生する約40万㎡の土砂を、防災緑地の整備や農地の嵩上げに流用するため、沿岸部へダンプで運搬しなければなりません。道路や下水道工事による通行止めを避け、住民生活や店舗への影響を抑えつつ、各工事の運搬効率を高める必要があります。そこで、沿岸部を通行する全ての工事車両の住宅地や通学路の通行を禁止、交差点の右折数を縮減、狭隘な道路を一方通行にすることによりルート管理をすることとしました。あわせて、責任を明

確にするためのダンプへの標識の掲示、散水車等による路面清掃や防塵対策を徹底しました。これらにより、住民等からの苦情、施工業者間のトラブルを減らすことができました。

二つ目は、資材の入手です。掘削がある程度進み、調整池や排水路等の工事を開始すると生コンがなかなか手に入りません。先に始まった沿岸部の消波ブロックや相馬港の沖防波堤のケーソンの製作が優先されていたため、たとえ生コンの手配ができたとしても、1日の使用量が少ない現場に届けられるのは、早くても午後3時、仕上げ作業が終わるのは夜中になることもありました。このようなことが連日のように続くと、作業員の体力的、精神的な負担が積み重なり事故につながる恐れがあります。作業員が十分に確保できない中で、勤務時間とシフトに十分注意しなければなりません。また、二次製品は在庫不足により納品に時間を要していましたので、在庫状況等を受発注者同士で確認し、納品の遅れ、返品、交換が生じないよう資材業者へ注文し、場合によっては、使用する製品の仕様を変更し、工期に影響が生じないよう対応しました。

施工現場での様々な調整や施工業者の多大なる努力、被災3県以外（私が関わった工事では、北海道、山形、栃木、新潟、宮崎の1道4県）からの現場作業員の応援により、平成26年3月末までに3つの団地を無事に完成することができました。

## 6. おわりに

災害派遣中の2年間、復興事業に邁進することができたのも、新地町役場の方々の温かいご支援や全国各地から集まった派遣職員の協力があったからでした。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。新地町で出会った方々は皆、万が一にも本県に大きな災害が発生した際には、必ず応援に行くと言って下さっています。大変心強いことです。災害派遣により強い絆を結ぶことができたことも成果の一つでした。

住民との合意形成、多くの関係機関との調整によって得ることができた知見は、今後の業務に大変参考となります。今後、これらの経験を活かすことはもちろんのこと、多くの方に伝えていくこともしなければならないと考えております。



標識を掲示しての土砂運搬



沿岸部への土砂の仮置き



住まいの再建が進む移転団地

＊ 会員の広場コーナー ＊



## ケーブルクレーン打設現場における工夫 （川口谷川通常砂防工事）

尾崎建設(有) 尾崎 正 英

### 1. はじめに

工 事 名 砂防第21-3-4号 川口谷川通常砂防工事谷川  
 発 注 者 高知県中央西土木事務所  
 工事場所 高知県吾川郡いの町勝賀瀬  
 工 期 H24.10.19～H25.6.25  
 工事概要 仮設ケーブルクレーン2基  
 土工（前庭工部） V=600m<sup>3</sup>  
 本堤工 L=23.6 H=10.0m V=525m<sup>3</sup>  
 流路工 L=26.0 L=11.5m  
 垂直壁工 1基

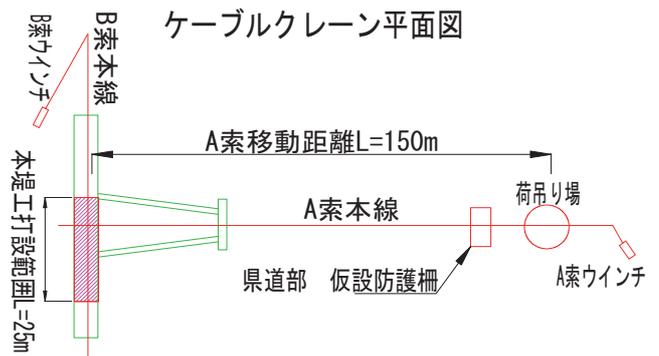


工事内容 いの町勝賀瀬地区の砂防ダム工事です。

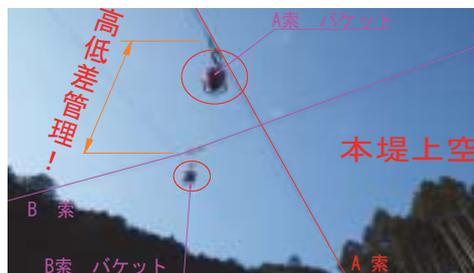
本堤工は前年度の続きで生コンクリート打設、前庭工は土工および生コンクリート打設を行います。仮設ヤードから施工位置まで150mありすべての資材搬出入は2基のケーブルクレーンで行います。

### 2. 現場の課題と対策、効果

1（課 題） 本堤上空でA索B索のケーブルが交際する。ケーブル本線の緩みにより輸送時バケット同士が接触しバケットが落下する恐れがある。（またA索と県道仮設防護柵との交点も接触の危険）



1（対策・効果） ケーブルクレーンのローチング部分にシール式プリズムを固定し輸送量に応じ光波計で高低差を計測し、本線の緩みがないか確認した。初期緩みも確認でき素早い調整対応が可能となりトラブルなく安全に施工できた。



2 (課題) ケーブルクレーンのワイヤー摩耗により劣化交換の判断も重要であるが、何トン輸送したら危険という具体的なデータがなく、またワイヤーの長さやウインチの操作方法などでも劣化の差が出てくる。この為ワイヤーを安全範囲内かつ、経済面及び資源の有効活用の点から安全側で適切な損耗率での交換時期の見極めをどのように判断するか課題となった。



2 (対策・効果) 旋回ワイヤー、巻き上げワイヤーの劣化交換時期把握の為、各ワイヤー径の計測を行った。計測には目視が容易で正確なデジタルノギスを使用し公称直径に対し7%以内 (JIS規格) に達する前に交換を行い安全に輸送できた。

この工事の架設延長では明確に1400m<sup>3</sup> (3290 t) の輸送が安全余裕をもった適切な交換時期であることが把握できた。



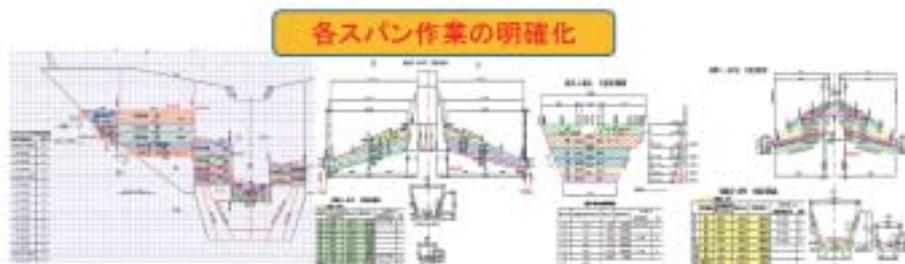
3 (課題) 現場まで150mの急峻な山道を毎日数往復することから、作業中はもちろん移動時においても安全意識を継続していなければ事故やヒヤリハットの確率が高くなる。毎日の安全対策でも人は忘れるもので安全意識の継続をどうしていくか思案した。

3 (対策・効果) エビングハウスの忘却曲線によると1時間に56%、1日後には74%も忘れるということで作業員の安全意識の継続を図るために現場までの往復で歩く作業道を活用し『見せる化』を実施しトークナビと子供の写真、自分の心に問いかけるオリジナルの詞作業道には安全標語の掲示を行った結果自分が怪我をしたら家族が悲しむと言う事が頭の片隅ではなく全体に常に広がり意識付けされ無事故で施工ができた。



4 (課題) ケーブルクレーン打設で1日当たり最大50m<sup>3</sup>が限界である為、打設リフト数が増え工期に余裕がなく工程が厳しい。施工速度を上げようがケーブルクレーンによる資材搬出入の速度を上げることができない。

- 4（対策・効果） 2006年度から高知県が行っているワンデーレスポンスの試行工事として使用し効果のあったCCPM工程管理をおこない、各スパンの型枠・生コン打設や時間の掛かる作業を明確にした。



時間の掛かる工程は？手間の掛かる作業は？協力業者さんの都合は？



考えられるロスや短縮できる方法を絞り出し簡易ソフトを使用しCCPM工程表へ



結果、毎週の各工種の進み遅れをすべて把握できるCCPM工程表を使用し綿密工程と週間予定表で発注者と協議することで、段階確認や立会をいつ行えるのか専攻して予定を組むことができ、待ち時間が無くなりワンデーレスポンスが実現できた。



### 3. おわりに

この砂防ダム工事は発注者と弊社社員が一丸となり工夫を凝らし様々な問題を乗り越え事故もなく安全に工事を完了する事ができました。

弊社としましても現場の工夫や対策には新たな道具や機械を極力購入することをせず現状の装備内で知恵を絞り出し『お金の掛からない工夫』ができたと自負しております。今後も強いチームワークと努力、知恵を絞り土建屋魂をもって安全に、そして良質な品質の土木構造物を施工していきます。

ありがとうございました。

## ★ 委員会コーナー ★

このコーナーは、技士会の4委員会（総務、技術、研修、広報の各委員会）の委員の皆様方に、持ち回りで各委員会活動に関するものに限らず、自由なテーマでお願いしています。今回は、技術委員会の川崎聡明様です。次回は、研修委員会の皆様です。



### 振り返ると感謝の気持ちでいっぱいです

技術委員会 **川崎 聡明**

(高知県土木部建設検査課 課長補佐)

高知県土木施工管理技士会の皆様、明けましておめでとうございます。日頃は高知県発注の工事の検査にご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、私も建設検査課で3年間、皆様の施工管理や検査に関わっていますが、今年の3月末で退職になります。まだ、少し早いですが、県の土木技術職員として38年3ヶ月間、仕事をさせていただいた業務を振り返ってみます。

まず、工事監督業務ですが、新採の時から心がけていた点は品質の良い土木構造物をつくることでありましたので、必要な知識を身に着けることでした。このため、学生時代の昭和49年に測量士、昭和56年に1級土木施工管理技士の試験を受験しました。高松行の汽車に後免駅で乗りましたが、高岡漁港修築工事を担当していた受注者の技術者と一緒になったことを今でも思い出されます。合格した時には、これでやっと同じ土俵に上がれるという気持ちが湧き出てきました。

それから、私が体験してきた業務のほうですが、最初の配属の本山土木事務所では、50災51災の道路災害復旧工事を担当し、次の室戸土木事務所では三津、椎名、高岡の漁港整備を担当しました。特に高岡漁港は、4年間で計画・設計から開港までを体験させてもらい、当時泊地浚渫土で造った残土処理護岸の背後地には、現在、海洋深層水取水施設もできています。

このようなモノづくりの他に、事業を行うための調整業務にも関わって来ました。例えば、高知新港建設対策、宿毛湾港工業団地開発、砂利対策、用地取得、高知空港運用時間延長等です。

この中で、平成16～18年度の高知空港運用時間延長の取り組みについて話をします。その当時、港湾空港局港湾空港振興課開発班長として、宿毛湾港工業団地開発計画の変更と高知空港2500m化後の空港周辺対策を総括していました。高知空港運用時間延長の取り組みは、滑走路が2500m化した高知空港の活用のため、7時30分～20時30分までの運用時間を7時～21時まで延長を図るものです。このためには、空港に近接した地区住民の理解が不可欠であり、県5名・南国市3名・国土交通省高知空港事務所1名計9名でプロジェクトチームを組み、12地区の住民の方々と話し合いを持ちました。

話し合いは、地区住民から見れば、飛行機の騒音時間が長くなるだけで何もメリットがないことから、県や市が県経済のためと訴えても、理解を得るのは困難を極めました。通常、このようなプロジェクトを進めようとする場合には、地元対策の関連予算を持つての対応となりますが、このプロジェクトは予算を持たず

に対応していったからなおさらです。地区住民からの意見は、「飛行機の騒音で日常会話ができない。」「テレビの音が聞こえない。」「空港の位置にあった命山を崩して日本軍が空港を造った。」「南海地震の津波が心配だ。」など普段からうっぶんしているものが話し合いでは吹き出してきました。話し合いも3年目に入った時、理解を得るのは無理かもしれないと思ったことが何度もありましたが、住民からの要望には県と市でできるものは地道に伝えていきました。最後の話し合いで同意が得られたとき住民から「これであなた達は、出世していくが、飛行機の騒音と向き合って生活をしている住民がいることを忘れないでほしい。」との声が今も心の中に残っています。ほぼ、同時期に、宿毛湾港工業団地のど真中に残っていた未買収地の用地買収も交渉から15年目で解決できました。

今振り返ってみると、両方とも諦めないで粘り強い交渉を継続したことが成功した重要な要因ですが、それ以上にタイミングと運が良かったと思います。特に、高知空港運用時間延長は、2500m滑走路ができて県経済の発展への期待が高まっているその瞬間から話し合いを始めて、ボンバル機の高知空港への胴体着陸（平成19年3月13日）の少し前までに同意が得られたことは幸運でした。

その後、高知空港を何回か利用していますが、そのたびに、運用時間延長で一緒に話し合った住民の方々の顔が浮かび感謝の気持ちでいっぱいになります。本当にありがとうございました。



## 写真で見る技士会活動状況

### JCM維持管理セミナー (ふくし交流プラザ多目的ホール)

◇平成26年9月25日

本年度から、始まった維持管理技術に関する全国技士会連合会共催講習会 (JCMセミナー) 初年度となり今年は、道路 (特に舗装) 維持補修に関する内容が中心で、69人の受講者がありました。次年度の同講習の内容は、河川維持管理となります。



### 平成26年度現場見学会

#### (工事現場: 安芸郡芸西村和食 和食ダム本体建設工事)

◇平成26年11月21日

良いお天気に恵まれ絶好の、現場見学日和。

「芸西村の家」に集合して昼食後、総勢、47名が2回に分乗してピストン輸送で現地へ向かいます。



まずはダムJV事務所で、見学のご挨拶。



和食ダム建設事務所 藤原所長からのご挨拶事業説明に続き  
川田JV所長から 本体工事の説明を受けました。



また、参加者からの質問にも熱心に答えていただきました。



J V事務所での説明の後、歩いて現場へ移動。  
まず、コンクリートプラントへ



コンクリートプラントの塗装色が実に地味ですが紫外線  
線を吸収する塗料=骨材温度を上げないための工夫。



本体打設用クレーンの基礎工  
その後、徒歩で上部の付け替え道路へ移動です。



本堤掘削底面の基礎岩盤の状況  
右岸側上部から見学



左岸袖部の法面工施工状況



## 高知県優良工事表彰式 (高知会館)

◇平成26年11月28日

高知県優良工事表彰式が高知会館にて行われました。

今年からは、事前プレゼン審査にかわり内部審査による、即表彰式となりました。

表彰状授与は淡々と進みました。

年明けに知事受賞者による発表会が行われます。



知事のご挨拶

知事賞表彰状を授与される会員の皆様



高知県土木施工管理技士会  
濱口副会長の来賓祝辞です。

## 事務局より

## 平成26年度4月～12月まで（公社）高知県土木施工管理技士会の状況について

## (1) 組織（会員）の現状

## ① 高知県土木施工管理技士会員の状況報告

	26. 3. 31	26. 12. 31	増 減
正 会 員（個人）	2,398名	2,449名	51名
賛 助 会 員（個人）	347名	381名	34名
賛助会員（団体）企業数	308社	308社	—
賛助会員（団体）口 数	501口	500口	1口

## (2) 技術力維持・向上に関する事業

## ① 土木施工管理技術検定試験「受験準備講習会」の実施

実 施 日	内 容	受講者数（前年）	会 場
6月3日（火）～6月5日（木）	1級学科（前半）	36名（30名）	ふくし交流プラザ
6月10日（火）～6月12日（木）	〃（後半）		高知城ホール
8月28日（木）～8月29日（金）	1級実地	30名（45名）	高知県立地域職業訓練センター
9月9日（火）～9月11日（木）	2級学科・実地	30名（46名）	高知県立地域職業訓練センター

## ② 土木施工管理技術講習会の実施

実 施 日	講 習 名	受講者数（前年）	会 場
6月21日（土）	土木施工管理技術講習会	178名（169名）	高知県立ふくし交流プラザ
6月28日（土）	土木施工管理技術講習会	129名（125名）	中村地区建設業協同組合会館
7月3日（木）	JCM特別セミナー	17名（24名）	高知県立ふくし交流プラザ
7月5日（土）	土木施工管理技術講習会	58名（61名）	安田町文化センター
7月9日（水）	土木施工管理技術講習会 （施工パッケージ・コンクリート・知財活用）	109名	高知県立ふくし交流プラザ
7月12日（土）	土木施工管理技術講習会	59名（44名）	須崎市文化会館
7月30日（水）	JCMセミナー	63名（59名）	高知県立地域職業訓練センター
8月21日（木）	土木施工管理技術講習会 （施工パッケージ・コンクリート・知財活用）	105名	中村地区建設業協同組合会館
9月25日（木）	JCMセミナー（維持管理；道路舗装編）	69名（—）	高知県立ふくし交流プラザ
10月24日（金）	四国4県統一テーマ	100名（51名）	高知県立ふくし交流プラザ

## ③ 監理技術者講習（法定講習）の実施

実 施 日	受講者数（前年）	会 場
4月9日（水）	115名（102名）	高知県建設会館
6月14日（土）	112名（69名）	高知県建設会館
8月23日（土）	69名（—）	高知県建設会館
11月1日（土）	73名（44名）	高知県建設会館
27年1月10日（土）	70名（52名）	高知県建設会館

## ④ その他団体との共催事業の実施

実 施 日	共 催 団 体	講 習 名	会 場
4月11日（金）	高知県地質調査業協会	技術講習会	グリーンホール
9月4日（木）	高知県	コンクリート建造物の維持管理・更新技術	サンピアシリーズ
9月12日（金）	高知県コンクリート診断士会	第5回コンクリート技術研修会	サンピアシリーズ
10月3日（金）	（一財）建設物価調査会	平成26年度土木工事積算実務講習会	高知県建設会館

## ⑤ 県内現場見学研修の実施

実 施 日	参加者数（前年）	研修場所
11月21日（金）	42名（33+33名）	和食ダム本体工事

## 技士会伝言板

会員の皆さんへのご案内、ご依頼ごとです。よろしく申し上げます。

### 土木施工管理技士会の 監理技術者講習のご案内

#### ★ 技士会連合会の監理技術者講習のメリット ★

- ①申込書に継続学習制度 (CPDS) 登録番号を記入するだけで、受講後に技士会の継続学習制度の学習履歴として登録加点されます。
- ②申込時にCPDS新規加入の方は、受講料にCPDS費用を上乗せして、継続学習制度 (CPDS) への新規加入欄の「する」に○をつけて下さい。(新規加入と履歴登録が同時にできます!!)
- ③インターネット (<http://www.ejcm.or.jp>) 申込みなら写真・書類の郵送は必要ありません。

#### 1. 受講対象者

公共工事の監理技術者となる方 (現場配置前に講習を受講しておくこと。  
建設業全28業種の監理技術者が対象となります。

#### 2. 受講料

9,800円 (テキスト代・講習修了証交付手数料、消費税含む)  
インターネット申込なら受講料9,500円

#### 3. 実施日・会場

平成27年4月4日 (土)    平成27年6月13日 (土)    平成27年8月6日 (木)

平成27年11月7日 (土)    平成28年2月6日 (土)

講習会会場：高知県建設会館「4階ホール」    講習時間：午前8時50分～午後4時30分

#### 4. 講習内容

建設工事に関する法律制度 (最近の社会・経済情勢と技術者制度)  
建設工事の施工管理、その他の技術上の管理  
建設工事に関する最近の技術動向等  
修了試験 (25分) ※修了試験後、講習修了証交付

#### 申込方法

・インターネットでの申込み

(一社)全国土木施工管理技士会連合会 <http://www.ejcm.or.jp/>

(公社)高知県土木施工管理技士会 <http://www.kochigisi.or.jp/>

・受講申込書での申込み

受講申込書に必要事項記入の上、カラー顔写真・受講料を支払った郵便局の郵便振替払込請求書兼受領証を貼付けて持参または郵送 (定形郵便82円)。

(受講申込書提出先)

(公社)高知県土木施工管理技士会

〒780-0870 高知市本町4丁目2-15高知県建設会館5階 (TEL 088-825-1844)

## 建設業法に基づく技術検定試験の制度見直しについて

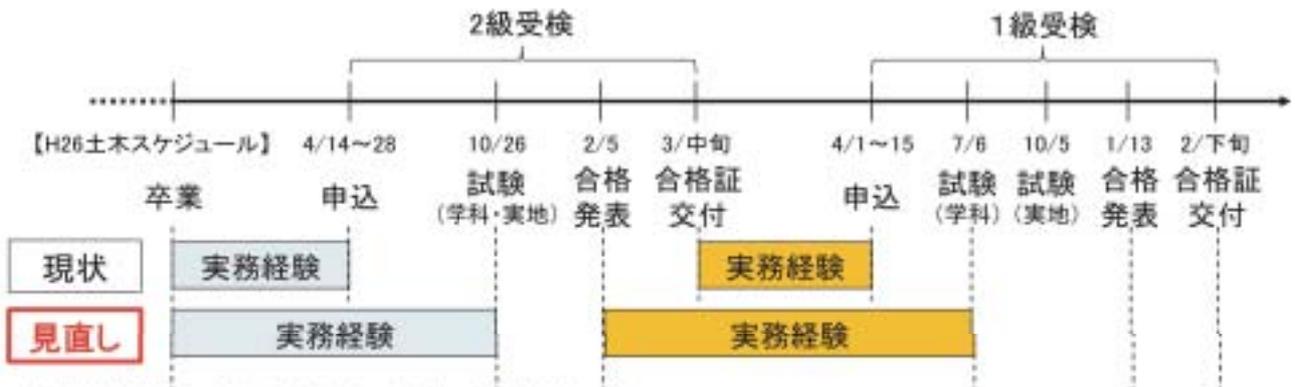
### 実務経験年数の基準日を変更

- ・ 実務経験を学科試験前日までで計算できるように変更
- ・ 2級合格者の実務経験は、合格発表日から計算するように変更
- ・ 実務経験を有する者は、従来よりも半年以上の早期受検が可能

建設業法（昭和24年法律第100号）第27条に基づく技術検定試験について、試験制度運用の適正化を図る観点から、技術検定の受検に必要な実務経験を従来は受検申込時で計算していたものを学科試験の前日までで計算できることとしました。さらに、2級合格者が1級を受検する際に必要な実務経験は、従来は合格証明書交付日より計算していたものを合格発表日より計算できることとしました。これらの変更により、実務経験を有する者は半年以上の早期受検が可能となります。この見直しは平成27年度試験より適用されます。（別紙資料1参照）

#### ○ 実務経験を計算する基準日を変更することで、実務経験を有するものは早期に受検可能とする

- － 受検要件の実務経験を当該試験の学科試験前日までで計算できるように変更
- － 2級合格者の実務経験は、合格発表日から計算できるように変更



注) 技術検定試験の日程は、平成26年度の土木施工管理技術検定の例

## 平成27年度 1、2級土木施工管理技術検定試験と講習会のご案内

### ～ 土木施工管理技士をめざして～

(一財) 全国建設研修センターが建設業法に基づいて実施します「検定試験」、また、(公社) 高知県土木施工管理技士会が行います「受験準備講習会」を次のとおり予定しています。

なお、申込み用紙(願書)の販売方法、講習会への受講申し込み方法については、決定次第会員各位の所属会社あてにご案内文書をFax送信いたします。(ホームページでも公開いたします<http://www.kochigisi.or.jp>)

### － 実 施 予 定 －

#### ◎ 申込用紙の販売 「学科・実地試験」 1部600円

- 1 級 土 木 平成27年 3月13日(金)～4月15日(水)
- 2 級 土 木 平成27年 3月13日(金)～4月28日(火)

#### ◎ 土木施工管理技術検定試験

- 1 級 (学科) 申込受付 平成27年 4月1日(水)～4月15日(水)
- 試験日 平成27年 7月5日(日)
- 合格発表 平成27年 8月19日(水)

- 1 級 (実地) 申込受付 ①前年度(平成26年度)学科試験合格者・学科試験免除者  
平成27年 4月1日(水)～4月15日(水)
- ②平成27年度学科試験合格者(受験手続)  
平成27年 8月19日(水)～9月2日(水)の予定
- 試験日 平成27年10月4日(日)
- 合格発表 平成28年 1月19日(火)

- 2 級 申込受付 平成27年 4月14日(火)～4月28日(火)
- (学科・実地同一日) 試験日 平成27年10月25日(日)
- 合格発表 平成28年 2月4日(木)



#### ◎ 受験準備講習会 (「検定試験」受験に備える講習会) 会場：高知市

- 1 級 (学科) 日 程 平成27年 6月2日(火)～4日(木) } (6日間)
- 平成27年 6月9日(火)～11日(木) }
- 受 講 料 会員45,000円・一般50,000円
- 再受講者割引 (H25～26年度当講習会参加者)
- 会員35,000円・一般40,000円

- 1 級 (実地) 日 程 平成27年 9月3日(木)～4日(金) (2日間)
- 受 講 料 会員18,000円・一般24,000円
- 再受講者割引 (H26年度当講習会参加者)
- 会員15,000円・一般20,000円

- 2 級 日 程 平成27年 9月15日(火)～17日(木) (3日間)
- (学科・実地同一日) 受 講 料 会員30,000円・一般35,000円
- 再受講者割引 (H25～26年度当講習会参加者)
- 会員23,000円・一般28,000円

